

西日本豪雨で起こった土砂災害

山梨県北杜市立甲陵中学校

一年

長幡 ながはた

みやび

今年の七月に西日本を中心に台風七号の影響で豪雨が続く、土砂崩れによってたくさんの人が亡くなった。これは平成に入って最悪の被害となった。

日本にはたくさん危険箇所があり、災害などの兆候がみられた時に政府は、テレビやインターネットなどで警報を出している。地

方では、放送をして呼びかけている。さらに、普段から私たちは土砂災害から守られている。例えば、公道だとアースエツドというものがある。アースエツドとは、斜面からの崩落土砂を受け流し道路を守るものである。加えて、崩壊土砂防止柵というものもある。別名、ハイパワーアースフェンスといい、ワイヤーロープや支柱、金網等で構成された巨大な壁で、走行中の自動車を守ってくれるものである。このように私たちはたくさんもの

に守られているのである。  
さらに、国土交通省には「土砂災害防止法」というものがある。これは平成十一年に発生した土砂災害がきっかけで、土砂災害から国民の命を守るために制定され、平成十三年四月から施行されたものである。この法律のおかたで私たちの毎日が安全なものになっていくといっても過言ではない。  
このような設備・制度を知ってから、私の中に一つの疑問が浮かんできた。それは、「

何故、西日本豪雨の被害を防ぎきれなかったのか」ということだ。無論、今回のような自然災害はいつ起こるか分からないから完全に防ぐことはできない。しかし、どうしてたくさんの方が犠牲になっってしまったのだろうかと思っただけでみると、大きな理由として、避難指示が出ていたのにもかかわらず、「自分は大丈夫だ」と思っただけで避難しなかつた人が多いということだ。なぜなら、数十分、数時間後に自分の住んでいる地域が泥と水の景色

に豹変してしまいうなんて想像できない。ましてや、自分の命が絶たれるかも知れないなんて思ってもみないのが普通であろう。しかし、避難勧告されているという事は、人の命がうばわれる可能性が高いという事だ。自分が死んでしまってもおかしくないという事だ。そう冷静に判断して行動してほしいと思う。

私が住んでいる山梨県には海はないが、周りが山に囲まれているから、西日本豪雨と同じ災害を受ける可能性が高い。ニュースなどを見て一番恐ろしいと感じたのは、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災である。当時五才で、その時に何が起こったかはよく覚えていなかったが、山梨県には海がないから心配いらないと思っていた。しかし、地域の避難訓練に参加させていたただいた時に頭の中からその考えは一瞬にして消えていった。なぜなら、区長さんが「川の堤防が決壊するところこの地区は、一メ

1メートルからニメートルの水が流れてきます。とおっしゃったからだ。私の身長だと、1メートルでも歩くのがやっとなのに、ニメートルだと、溺れてしまう。その場合、溺死か窒息死してしまいう可能性が極めて高くなる。もし、警報を聞き流してしまったり、避難準備が遅れてしまったりして、避難場所まで行くとなると、一キロメートル近くあり、道も複雑なため、助かる確率は低くなってしまう。この話をきいて、土砂災害とは関係ないので

はないかと思っただ方もいるだろう。しかし、雨が降り、土砂崩れが発生し、川が決壊するという流れで考えれば直結していると思っただいはいはあだ。

私が見聞きしたことについて考えたこと、思っただことがいくつもある。まず、普段からすぐに避難できるように、必要最低限のものを荷物にまとめしておくことだ。そうしておけば、避難しなければいけないと思っただ時にすぐ、行動に移すことが出来るからだ。次に、

避難勧告が出たら、落ち着いて避難することだ。なぜなら、避難しておけば、万が一のことに備えることができるからだ。さらに、ハザードマップを見て、家族と話し合い、避難経路と集合場所を確認しておくことが大切だ。なぜなら、電話やメールなどで通信不可能になっってしまうかも知れないからだ。そして最後に、「災害は身近なもの」という意識を持つていなければいけない。なぜなら、災害は簡単に予知できるものではないからだ。土砂

災害は、自然災害の中であり危険である一方、あまり目を向けない災害だと思う。だから、地域で頻繁に点検して、危険箇所はなるべく早く整備を行う。これをくり返すことが土砂崩れを防ぐ唯一の対策案だと思う。そして私たちは、日頃から災害について考え、避難場所や避難方法を再度確認し、すぐに避難できるように必要最低限の荷物をまとめておくことが大切だ。「油断禁物」という言葉を胸に、これからの生活を送っていきたい。